

建設環境常任委員会

委員長 田中隆太郎

商工観光課

体験交流型観光推進事業について、民間受け入れ家庭が平成23年度の194件から平成26年度129件に減っているが、学校側から評価や受け入れ家庭から大きな問題はないか。

また、受け入れ家庭へ研修など実施は行っているのかとの質問に、学校側からは、体験型修学旅行の受け入れについて高い評価を得ており、リピーター校も半数以上ある。受け入れ家庭の減少は高齢化によるもので、新たに移住してきた方にも協力をお願いし、受け入れ家庭の確保に努めている。

研修は年2回実施しているとの答弁。

地域資源活用新ビジネス応援事業補助金90万円の3件について、どのようなものがあつたのかとの質問に、アカモクという海藻を使った特産化プロジェクト。みかんの木伐採材利用事業

として木琴と三板の製作。海産物を利用した大島銘菓の試作の3件について、1件当たり30万円を補助したとの答弁。

水産課

護岸の改良等の海岸保全施設整備の補助率はいくらかとの質問に、国庫補助率が50%、県費補助率が17%、町費補助率が33%になっている。町費の33%については、公共事業債が90%充当されるとの答弁。

建設課

漁港施設内及び港湾施設内の街灯の設置はどうなっているのかとの質問に、港湾施設内で最低必要な箇所には、施設管理者である山口県が、港湾施設内は町が、それ以外で必要な箇所への設置については、地元関係者にお願しているとの答弁。

農林課

家の庭先まで出沒するイノシシの捕獲について、大島郡外の猟友会にも捕獲駆除を依頼して欲しいとの要望があるとの質問

に、地理的なこと、見廻りの必要性から地元の方が適任と判断している。

捕獲隊員は約70人で1人当たり30基までをなを仕掛けることができ、最大2千1百基程度のわなが設置可能であるので、現状により対応したいとの答弁。



民家にイノシシが出沒、対策にフェンスを設置

上下水道課

集合処理と浄化槽の経費負担の格差是正を検討しているのかとの質問に、経費負担の格差是正を現在検討中、久賀・大島地

区の下水を整備していく上で、計画処理区域以外は、浄化槽設置補助の上乗せ等により集合処理と浄化槽との負担格差是正するため現在検討中であるとの答弁。

生活衛生課

前年度に比べてゴミの処分量は減っているが、費用が増加している理由はどの質問に、消費税の増税に伴う業務委託費や施設の修繕・補修費等の費用が増加したとの答弁。



建設環境常任委員会決算審査